

国際学会 2016 International PUARL Conference での「Dementia Friendly Communities with a Pattern Language for Living Well with Dementia」の発表。

環境情報学部 3年 金子 智紀

1. 活動日程・場所

10月21日～11月1日 University of San Francisco, San Francisco, USA

2. 活動の目的

本研究は、認知症フレンドリーな社会をパターン・ランゲージを用いて実現する取り組みである。今回の活動では、本研究成果である「Dementia Friendly Communities with a Pattern Languages for Living Well with Dementia」(Tomoki Kaneko, Ayaka Yoshikawa, Takashi Iba, Oct 2016) をアメリカで開催される建築・都市デザイン領域のパターン・ランゲージの国際学会である 2016 International PUARL Conference にて研究発表を行い、今後の活動に向けたアイデアやフィードバックを得ることを目的とする。

3. 研究の成果

今回の活動は、認知症フレンドリーな社会の実現へ向けて、2016年春学期、井庭研究室に所属する申請者が「旅のことばを探す旅」プロジェクトの成果である。このプロジェクトでは、認知症とともによりよく生きるためのパターン・ランゲージである「旅のことば」を用い、日本全国各地を旅し、各地の「旅のことば」を使っている人を訪ねたり、使われている事例を調べたり、自らワークショップやイベントを実施している。

今回の活動では、上記のプロジェクト活動の中でパターン・ランゲージを使って実現された「認知症フレンドリーなコミュニティ」を3つ取り上げ「Dementia Friendly Communities with a Pattern Languages for Living Well with Dementia」としてまとめ、2016 International PUARL Conference にて発表を行い、以下成果をあげることができた。

建築・都市デザイン領域のパターン・ランゲージの研究者から、パターン・ランゲージを用い、医療・福祉以外セクターを巻き込みながら認知症フレンドリーな社会の実現させていくことに対して評価をいただいたのは大きな成果である。本活動で参加する PUARL カンファレンスは、パターン・ランゲージを提唱したクリストファー・アレグザンダーの同僚者や各国で様々なパターン・ランゲージを用いたまちづくり、コミュニティづくりを実践している研究者が多く集まる国際学会である。特に、より良い場やコミュニティのあり方を定義している「パターン・ランゲージ」とより良い場やコミュニティの中での活動を定義している「旅のことば」の両方を使ったことを評価された。



学会発表の様子

#### 4. 今後の発展

今回の発表を通じていただいたアイデアやフィードバックを参考にし、今後も認知症フレンドリーな社会を「パターン・ランゲージ」を用いて実現する取り組みを進めていく。今後の展開として、本研究発表に合わせて同学会内で実施した建築・都市デザイン領域の研究者と一緒に「認知症フレンドリーなまち」について議論するワークショップや、同時期に開催されるコンピュータサイエンス領域の研究者が多く参加する国際学会である PLoP にて実施した「認知症フレンドリーなシステム」について議論するワークショップといったような、医療・福祉以外の専門家を巻き込むワークショップを多く実施していきたい。そして、そこで出たアイデアを実際に行い、認知症フレンドリーな社会の実現へ向けて活動して行きたい。

#### 5. 謝辞

ご指導いただいた井庭崇先生をはじめ、発表の質の向上に貢献してくれた井庭研究室のメンバー、そして研究発表を行うにあたり助成金をいただいた湘南藤沢学会様に心より御礼を申し上げます。